

## 執筆者(掲載順)

### [巻頭言]

河田 恵 昭 関西大学理事 社会安全学部長・社会安全研究科長 教授

### [論文]

川口 寿 裕 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 准教授

河野 和 宏 関西大学 社会安全学部 助教

高島毛 敏 雄 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 教授

高野 一 彦 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 准教授

菅 磨志保 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 准教授

松野 敬 子 関西大学大学院 社会安全研究科 修士課程

金子 信 也 福島県立医科大学 医学部 博士研究員

尾久 裕 紀 白梅学園大学 子ども学部 教授・精神科医

オリビエ トレス  
(Olivier Torres) モンペリエ第1大学 (Universite Montpellier I) 教授

亀井 克 之 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 教授

佐藤 督 郷原総合法律事務所 専門調査員

永田 尚 三 武蔵野大学 政治経済学部 准教授

辛島 恵美子 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 教授

永松 伸 吾 関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 准教授

### [研究ノート]

坂本 真理 関西大学大学院 社会安全研究科 修士課程

編 集 後 記

本紀要の完成が間近に迫った2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生した。この地震では大津波が発生し、東北地方沿岸部を中心に甚大な被害をもたらし、東京電力福島第一原子力発電所に危機的なダメージを与えた。この地震・津波、原発事故により被災した多くの方々に、本紙を借りて心よりお見舞いを申し上げたい。

「安全・安心な社会」を実現することは、わが国にとって最も重要な課題であり、研究者が果たすべき役割は極めて大きい。現実にかかる災害や事故への対応は、極めて学際的・分野横断的な研究が必要である。たとえば、東北地方太平洋沖地震においては、地震や津波の研究は然ることながら、防災に係る行政学、被災地域の復興に関する経済学、ボランティア活動などの各分野からのアプローチが必要である。また原発事故に関しては、原子力発電の安全性に係る技術的な研究は然ることながら、再発防止策を検討するにあたっては原子力に係る行政学、企業法学、経営学、リスクマネジメントなどの各分野からのアプローチが必要である。

従前の研究活動は、専門分野に特化して行われ、学問間の相互交流が積極的に行われていたとは言い難い。しかし、「安全・安心な社会」を実現するためには、文系・理系、各学問分野の壁を越えた学際的・学問横断的な研究が必要である。このような観点から関西大学は2010年4月に、社会安全学部および大学院社会安全研究科を新設した。わが国における先駆的な試みである。

河田恵昭学部長は、「ハーバードを目指す」というビジョンを語り、教員は団結して研究を重ねている。私たちが目指すのは、実践的で実効性の高い「社会安全学」の確立である。「社会安全学研究」第1号は、その布石として創刊した。本紀要が第2号、第3号と発刊を重ね、「社会安全学」研究がすすみ、わが国の「安全・安心な社会」の実現に少しでも貢献することを祈念している。

(高野一彦)

『社会安全学研究』創刊号 編集委員会

委員長	高 野 一 彦
	小 澤 守
	土 田 昭 司
	高鳥毛 敏 雄
	辛 島 恵美子
	越 山 健 治
	安 部 誠 治 (編集協力)

## 社会安全学研究 創刊号

---

発行日 平成23(2011)年3月31日  
発行者 関西大学 社会安全学部  
〒569-1098 大阪府高槻市白梅町7-1  
電話：072-684-4000  
ファックス：072-684-4007  
印刷 株式会社 遊文舎

---

本誌に掲載された著作物に関し、複写、転載、翻訳などの著作権使用許諾をご希望の方は、直接発行者までご連絡ください。

# Safety Science Science Review

関西大学 社会安全研究科・社会安全学部  
大阪府高槻市白梅町7-1 〒569-1098  
Tel. 072-684-4000 Fax. 072-684-4188

Kansai University Graduate School and Faculty of Safety Science  
7-1 Hakubai, Takatsuki, Osaka 569-1098, JAPAN  
URL [http://www.kansai-u.ac.jp/Fc\\_ss/](http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/)